



大阪新聞錦画
九号

盤城の国且理駅お松之助と母入と子入らして妻を云ひてまがし給
 老の坂五十年をむらう春心同町豊吉が後添ひの姿色も
 よれお思ひそめを負ふらりの
 豊吉が辛た世
 塩賣ふ出跡お茶
 呑むるせめての国のちた
 みふあつたのよあ政所思ふ心の衣を
 ねくほの口切りが吉吉せんの花香忍を
 中とありしが日ふつて好うあつた
 金ゆうへ世見ひけて見うらんと謀たの
 典吉問へ金十円も下さるを譲りもする
 との返事をききび金をその入引取る
 本らちりの母あへ此女の
 親父を智とあつた
 子の眼を息子お娶
 三組揃ひ一普れを一荷あまふ

皇荷とてかろく
 趣向を四海を
 くの導り高登
 けりりの人と是を
 見て三九度の
 ぐらと歎息
 せらる

小修
 大正
 三修
 堂

日々新聞
 千五百
 出

大阪新聞錦画9号 文庫10-8066-9